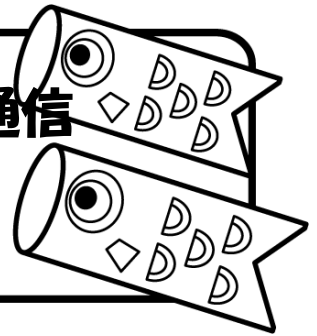


# 青木村子どもはつらつネットワーク通信

平成27年度 第116号 5月1日  
青木村子どもはつらつネットワーク事務局発行



今月号では、今年度の保小中の重点目標を保育園長、小中学校長にお伺いしました。また、昨年12月に行われました倉澤誠先生の講演会の続きを掲載いたします。



## 青木村保育園の保育目標

園長 多田 治由

新年度に入り、あまりすっきりしないお天気の日が続いていますが、厳しかった寒さも和らいで、過ごしやすい季節になってきました。新入園児の皆さんも少しずつ園の生活にも慣れ、元気に活動する声が聞こえてくるようになってきました。保護者の皆様にはお子さんを温かく見守っていただき、楽しい園生活が送れますようご協力をお願いいたします。



また、この4月から、国が進める「子ども・子育て支援新制度」が本格施行し、青木村でも事業計画を定められ、新しい体制で保育園も動き始めました。制度の概略については4月号でお知らせしましたが、事業計画については近日中に村のホームページでご覧いただけるようになりますのでご利用ください。

保育園では本年度も『明るく元気に遊べる子』を保育目標に活動を進めます。そして次のような姿を目指し、子どもたちに寄り添いながら保育に取り組んでいきます。

- 1、 明るい子・・・素直で心温かな、他人を思いやれる子
- 2、 元気な子・・・少々のことにへこたれない、健康な身体と心の子
- 3、 遊べる子・・・ルールを理解し、色々な人と関われる子

その実現のためにいくつかの重点を定めていますが、中でも「基本的な生活習慣を身につける」と「保育園から小学校へのスムーズな接続」を最優先の重点とします。

村で定めた『あおきっ子教育ポイント5か条』でも、早寝・早起き・朝ごはんの習慣化を目標に掲げていますが、近年、生活習慣の多様化により本来子どもの生活リズムを基準にすべきところを、大人のリズムにつき合わされているケースが見られます。幼児期にきちんとした生活習慣を身につけていくことは大変重要であり、子どもさんの将来に非常に大きな影響を及ぼすことを皆様に理解していただき、保育目標の実現に向けて取り組みます。

もう一つの「小学校への接続」については、保小中一貫教育の中でも取り組んでいるところですが、保育園から小学校へ上がる際のギャップは、現代の子どもたちにとって大人が考える以上に大きなものようです。「少々のことにへこたれない強さ」を身につけることも大切ですが、小学校行事への参加や交流を通じて少しでもギャップを軽減し、抵抗なく小学校生活に移れるよう、関係機関の皆様のご協力もいただきながら取り組んでいきます。また、保護者の皆様の中にも小1ギャップへの不安をお持ちの方が多いようです。年3回実施をしている園開放や行事の時だけでなく、気軽に声をかけていただき不安を共有し、一緒に考え取り組んでいけるような体制づくりに努めます。



保育園では村の子育てに関わる中心的な機関であるという意識をしっかりと持ち、職員一同協力しながら保育にあたり、保護者の皆様や地域の皆様のご期待に応えられるよう努めて参ります。保護者の皆様を始め地域の皆様には色々な場面で保育園の活動にご支援をお願いすることもあります。ご協力いただきますようお願いいたします。



## 平成27年度 青木小学校 学校運営の重点

校長 吉澤 修一

上水内郡飯綱町立三水第二小学校より参りました。青木三山や浦野川などの豊かな自然に囲まれ、文化・歴史の誉れ高い青木村。この地で魅力ある学校教育を実践している青木小学校に勤務できるという喜びでいっぱいです。微力ながら、精一杯努めて参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



平成27年度の青木小学校は、28名の新生と6名の新しい先生方を迎え、全校児童226名、職員27名でスタートしました。学校教育目標、そして本年度の重点目標を次のように定め、教育活動に取り組みます。

### 1 学校教育目標

#### 「あかるい子 かしこい子 たくましい子」

「あかるい子」 それは、温かい心と思いやりの心をもつ素直な子です。

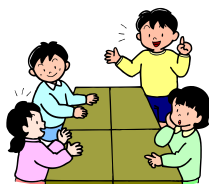
「かしこい子」 それは、基礎基本を身につけ、状況に応じ、自ら判断できる子です。

「たくましい子」 それは、継続してやり抜く、強い意志と身体をもつ子です。

青木小学校の子どもたちには、このように育ててほしいと願っております。そのために、具体的な重点目標として、次の4つを掲げました。

## 2 今年度の重点目標

### 「あいさつ」「学び合い」「無言清掃」「体力づくり」



「あいさつ」では、相手からあいさつされてからするだけではなく、自分から明るく挨拶できるようにすることをめざします。

「学び合い」では、よく見て、よく聞いて、自分の考えを深めながら、みんなで考え合っていくようになることをめざします。

「無言清掃」では、一人になって黙って取り組み、汚れを見つけたりやり方を工夫したりして、気づきの清掃ができるようになることをめざします。

「体力づくり」では、毎日のマラソンを継続するとともに、休み時間等に身体を動かして思い切り遊ぶことも大切にしたいと考えています。

ご家庭や地域の皆様と同じ方向性を持ち、共に子どもたちの教育に当たって参りたいと思います。ご協力よろしくお願いいたします。



## 平成27年度 青木中学校教育活動の重点

校長 清水 恒善

長野市立三本柳小学校より青木中学校長として着任しました、清水恒善（しみずつねよし）と申します。着任式や入学式での中学生の礼儀正しさ、挨拶の仕方には私の方がかきこまってしまうくらいに深く感動致しました。子どもたちにもとても大事に迎えていただいたと思うとともに身の引き締まる思いを新たに致しました。



青木村は豊かな自然に恵まれ、独自の歴史と文化を持ち「義民の里・青木」として有名な地です。故郷青木への誇りと愛着は、青木中学校への、さらには自分自身への誇りと自尊感情を高めることにつながります。「この村に生まれてよかった。」「青木中学校に入学してよかった。」という思いは、この自分でよかったという思いや生まれてきたことに感謝する気持ちにつながっていきます。人が多くの方に支えられ生かされて生きていることは学校も同様です。青木中学校が、保護者の方や地域の方に多くの場面で支えていただいていることに感謝しながら、生徒・教職員ともに手を携えて努力して参りたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 1、5つの実現したい姿

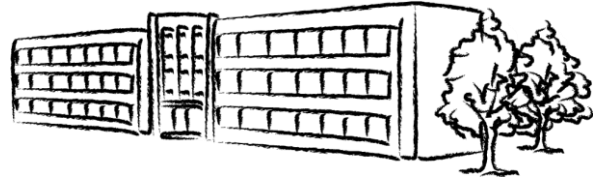
青木中学校では『5つの実現したい姿』を掲げ、職員も生徒も心に留めて生活しています。生徒会入会式では、入学した1年生に生徒会役員から、めざす姿について具体的に示しながら、全校で一つになって取り組んでいこうと呼びかけました。保護者の皆様や地域の皆様にもご理解いただきご支援をいただければと思います。

### 5つの実現したい姿

- ① 学び合い
- ② 伝えよう、心の挨拶
- ③ 心を磨く清掃
- ④ 心に響く歌声
- ⑤ 心を耕す読書

## 2、今年度の重点

5つの実現したい姿のうち、今年度は特に「学び合い」と「心の挨拶」を重点とし全職員、生徒が一丸となって取り組みます。



### ■学び合い

4月当初の全校での学習ガイダンスで、学び合うことのよさや必要感、めざす学び合いの姿について生徒と確認し合いました。知識や技能を身に付けるだけが学習ではありません。自分との違いや他者のよさに学びながら自らの学びを深くしていくこと、他者に学ぶ謙虚さをもつこと、思考力や表現力、判断力は他者との共同的な学びの中でより育まれていくものと考えます。また、義民太鼓や総合的な学習、職場体験学習等、地域の方と共に学ぶことも子どもたちの成長にとって欠くことのできない大切な学び合いの場とらえています。



### ■心の挨拶

挨拶を大切にするということは、私とあなたとは「関係がある」というのがその底にあると思います。先生と生徒という関係、同じ学級・同じ部活・同じ学校の生徒同士という関係、同じ地域に住む仲間といった関係。相手を大切にし、あたたかな人間関係づくりのベースになるものが、日々の何気ない挨拶の中にあると思います。挨拶を通して自分が相手を大切にすれば、相手の人もきっと自分を大切にしてくれる、そう思います。



本年度も、中学校職員一同、精一杯頑張ります。保護者、地域の方々、教育委員会、村当局のご理解とご協力の程よろしくお願い申し上げます。

# 倉澤 誠先生の 子育てで大切にしたいこと

## Part 2

《前回までのお話》

「やさしい思いやりのある子」「何事にもへこたれない強い子」「良い悪いの判断が自分でできる子」「人に好かれ友達の多い子」を育てるには子ども自身の気持ちの安定が必要です。

そのための一つとして1.「自信を持つ」ということが重要です。子どもに自信を持たせるための大切なポイントとして①できるようにする、②ほめる、があります。

.....

小学校3年生の転校してきた女の子の話をしたと思います。この子は転校する前の学校の入学時検査で、先生から「鈍い」と言われたそうです。親にしてみればショックな言葉ですよね。確かにB子さんは行動がゆっくりだったようです。そのため、物事に取り掛かる時には、一つひとつ先生や友達が声をかけていたようです。そうやって何年か過ごしているうちに、指示がないと行動しなくなってしまいました。こちらに転校してきて担任の先生から相談を受け、私も教室での様子を見ましたが、確かにずっと黙っていますし、指示があるまでじっとしています。また、休み時間に教室の出口の前で男の子が2人でおしゃべりしていると、教室から出たくても出られない、あきらめて別の出口から出る、といった様子でした。自分から友達に声をかけるとか、自分のことは自分でするとか、もっと子どもらしい元気さがあった方がいいのではないかと思いました。

そこで、私の教室に週一回1時間来てもらうようにしました。私の教室では危険がない限り何をして遊んでもいい、ということにしました。一回目は様子を見ているようで、こちらで見せてあげた遊具でちょっと遊んでみたりしていました。二回目は教室を走り回りました。新しい遊具を選んだ時にはすごく褒めました。また、色違いの遊具がある時は、こちらで選んで渡すのではなく、本人に必ず色を選ばせました。今では私に「ゲームをやろう」と誘いに来るようになりました。先日は担任の先生が「B子さんが男の子を泣かせちゃいました」と少し嬉しそうに言いながら来ました。その男の子にはちょっと悪いのですが、自己主張できるようになってよかったな、友達と関われるようになってよかったなと思いました。

最初に「鈍い」と言われたことが、お母さんもずっと引っかかっていたし、周りの大人はそのつもりで対応してきたし、本人もそれでいい、と思って生きてきたんですね。指示されて動くのは楽なんです、それでは良くないですよね。「鈍い」という言葉ではなく、「じっくり取り組む子」と言えばその子の良さが見えてきます。その良さを伸ばそう、というふうになります。良いところを見つけ出すためにはそんな見方が大切だと思います。

褒める時の注意ですが、低学年の子どもの場合はみんなの前で褒めてあげた方が効果があります。見ていた子達が褒められたくて同じようにします。高学年になると、それよりも2人きりの時に褒めてあげた方がいいですね。みんなの前だと、「いつも〇〇さんばかり…」と

なることもあるので、注意したいところです。

## 2. 自分は大事にされている

気持ちの安定のための二点目は、自分は大事にされているという気持ちを持てるようにすることです。

### ① 叱り方

叱り方はとても大事です。「駄目じゃないの」とか「何回言ったらわかるの」とか「また君か」といった叱り方は「君はダメだ」ということを伝えているだけです。伝えたいことは「したことが悪い」ということ。「あなたがダメ」なんじゃなくて「あなたのしたことがダメ」という叱り方が必要です。人格を全部否定するような叱り方は自信をどんどん無くしてしまいます。子どもは、叱られないようにするためには言われたとおりに動く、ということを学んでしまいます。そして言われたことだけしかしない子になってしまいます。また叱られないようにするために、自分のした失敗を隠すようになったり、うそを言うようになったりします。うそを言う子はそういう子どもを大人が育てているのです。

### ② 気持ちをくむ

子どもが泣いている時やお友達と喧嘩をしてしまった時、どうしてそうってしまったのか、子どもの話をよく聞いてあげると安心します。「そうだったの…それは嫌だったね」「それはちょっと我慢できないよね」と言ってあげると自分の話を聞いてくれる人がいる、と感じます。頭ごなしに「だめだよ!」と言われると、子どもは次に行く場所がありません。あなたの気持ちはわかるよ、ということ伝えてあげたいですね。

### ③ 手のかからない子

よく、「上の子は手がかからないけど下の子は大変で…」というような話を聞きます。でも私は手のかからない子には注意しなくてはいけないと思っています。手のかかる子というのは、実はいつもお母さんに見てもらっているのでもいつもお母さんと繋がっているんです。でも、手のかからない子は「お母さんは下の子で今大変だから私は我慢しよう」と思っているのかもしれないし、「お母さんに嫌われないようにしよう」と思っているのかもしれない。本当はお母さんと一緒に何かしたいと思っているのかもしれない。すべての子がそうだとはいえませんが、気にかけて声をかけて大事にしてあげたいものです。

### ④ 甘えさせる

10歳までの子、“つ”のつく歳の子（ひとつ～このつ）はたくさん甘えさせていい、と言います。私がお母さんとお話する時は「もっとベタベタしてください」と言います。そうすることによって、子どもは落ち着いてきます。「甘えさせる」とは、抱っこしたり、手をつないだりということで、物を買って与えたりする「甘やかす」とは違います。

自分は大事にされているという気持ちを持てるような付き合い方をしてほしいです。

(次月号に続く)



今月号と一緒に「平成27年度青木村の教育」「あおきっ子教育ポイント5か条」を配布いたしましたので合わせてご覧ください。